



令和 3年 8月 12 日

東松島市議会議長

小野 幸男

様

(会派名) 松桜会

代表者氏名 小野 恵章

会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: 松桜会視察研修

3 実施期日: 令和3年7月27日(火)～令和3年7月29日(木)

- 4 活動成果:
- ① 六ヶ所村にある日本原燃株式会社の原子燃料各施設を視察することにより、原子燃料サイクルの現状を把握することができた。また、再処理工場で発生が想定されるトラブルへの懸念に対して、重大事故対応と設計基準対策など安全対策への強化が図られていることを理解した。
 - ② 遠野みらい創りカレッジでは、産官学民連携の取組みによる人口減少対策、地域課題解決などの事例を学んだ。
 - ③ 道の駅「遠野風の丘」のブランドや集客、差別化戦略を通して、全国有数の道の駅であることを理解することができた。

5 添付書類: 報告書2P、各施設資料



会派松桜会研修報告

青森県 六ヶ所村原子燃料サイクル施設（日本原燃株式会社）

日本の原子力政策の国家プロジェクトの現状を研修。

六ヶ所村は青森県下北半島太平洋岸に位置する人口1万60人の村である。

原燃PRセンターで概要説明を受けた後、PRセンターを見学。また、低レベル放射性廃棄物処分場、使用済み燃料再処理場、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター他を見学し、原子燃料サイクルの現状を把握することができた。また、この事業が100年、200年の長いスパンでスケジュール化されていることも理解した。

重大事故への懸念については、竜巻、地震など想定される事故への対策を強化していることで安全の確保を図っている。また、電源、冷却機能、水素掃気機能それぞれの多重化、多様化も図り、重大事故対策を強化している。

原発について賛成反対それぞれの議論があるが、原子燃料の処理については、今後、未来永劫再処理施設は稼働せざるを得ず、その現実から逃れることはできないことを痛感。故に原子燃料サイクルについてさらに理解を深め、正確な知識を広めることが、市民の安全、安心に寄与することができるのではないかと考える。

東松島市は女川原発のUPZ県内に位置していることから、今回のサイクル施設の視察は意義あることであった。

岩手県 遠野市遠野みらい創りカレッジ土淵校

遠野みらい創りカレッジ誕生の経緯とそのコンセプト、事例について研修。

少子・高齢化に伴う人口減少のため、市内中学校の再編計画により、土淵中学校も閉校。

その閉校後の校舎活用に伴い「遠野みらい創りカレッジ」が設立された。

ちなみにこの土淵地区は「遠野物語」にあるカッパ伝説発祥の場所にある。

遠野市は東日本大震災の後方支援拠点になり、首都圏企業が復興支援およびCSR活動を開始したことが契機になり、産官学民連携の地域づくりが始まった。

産官学民の対話集会では、「人口減少」、「高等教育の場の不在」、「地域内で稼げる仕組みの不在」など地域課題を抽出し、「ふれあうように学ぶ場」の構想ができあがっていった。

「ふれあうように学ぶ場」は中学生や高校生の学びの場になり、人材育成につながっている。

人的ネットワークを活用しての中央の大学生と地元の若者による情報や感性の共有によるフォーラムやコンサートの開催も行っている。

地域内外の住民や若者の参加が多くアイデアを出し合う点は素晴らしいと感じた。

地域づくりはよそ者、ばかもの、若者が主体となるべきとはよく言われる論であるが、遠野市もよそものの発想を重視しているところが良いと思った。

尚、概要説明の後、木造の校舎と食育カフェを見学した。

地域資源を活かしての企画・運営の取り組みを東松島市でも参考にして、地域活性化を図っていきたい。

岩手県 遠野市道の駅「遠野風の丘」

全国モデル道の駅として全国有数の売り上げを誇っている「遠野風の丘」を視察研修。道の駅「遠野風の丘」はじゃらん全国道の駅グランプリ2021で6位に入った人気の道の駅である。

遠野ICも近く、R283に近接しており、交通の利便性があるところに立地している。この4月にリニューアルオープンし、更なる集客の確保を目指している。

運営は株式会社遠野ふるさと商社が担っている。

遠野風の丘は遠野市観光の周遊促進のゲートウェイ拠点となっている。遠野風の丘のテーマは「ジンギスカン」「ホップ/ビール」「民話の宿る里」の3つでブランド化を推進している。展示スペースは遠野の伝統を表現するように古めかしく作られている。物販エリアは古民家風の装いの中に「民話」や「ビール」の要素を取り入れている。飲食店は遠野産の食材に特徴を持たせるこだわりメニューを提供。また、オンラインショップもオープンしている。

遠野風の丘を視察して、地域イメージを活用してのブランドの確立や統一に腐心している点とコンセプトがしっかりしていると感じた。

東松島市の道の駅構想も上記の点などに意を致し、民間発想を取り入れ、「遠野風の丘」と同程度の規模での計画でないと成功は難しいと感じた。今後の計画策定において、議会として先進事例を多く研究し、積極的に提言していく必要がある。